

平成26年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492600430	事業の開始年月日	平成24年4月1日	
		指定年月日	平成24年3月30日	
法人名	社会福祉法人ラファエル会			
事業所名	小規模多機能型居宅介護 夢かご			
所在地	( 252-0181 ) 相模原市緑区佐野川2036-14			
サービス種別 定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	25名	
		通い定員	15名	
定員等	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	5名	
		定員計	名	
自己評価作成日	平成26年11月30日	評価結果 市町村受理日	平成27年2月27日	
ユニット数			ユニット	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別対応と介護予防をコンセプトとし、できるかぎり多くの人員配置と、プログラム、行事の提供を心がけている。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8F		
訪問調査日	平成26年12月8日	評価機関 評価決定日	平成27年2月24日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

#### 【事業所の概況】

事業所はJR中央線上野原駅より井戸行バス、岩中野停留所の目の前にある。瀟洒な平屋建てで、当小規模多機能型事業所と2ユニットのグループホームが併設されている。敷地は広く、農園やゆったりとした散歩コースもある。周囲は豊かな自然と原風景の残る落ち着いた環境である。地域には同法人の高齢者施設や他法人の福祉事業所があり、連携して地域に貢献している。

#### 【理念の実現に向けた取り組み】

「福祉を通して、関係するすべての人に「夢・安心・笑顔」をつくり続ける」という理念と、「明るく、楽しく、温かく」という心得の実現に向けて取り組んでいる。東側に面した明るいリビング（兼食堂）ではクリスマスのシーズンを迎え、利用者は職員と一緒に談笑しながら飾りの準備を楽しんでいた。天井には縦横の大きな木の梁が出ていて、柔らかい木の温もりがリビング全体に感じられた。

利用者が、敷地内にある農園でとまとやきゅうり、さつま芋など季節の野菜を収穫したり、白菜漬けに腕を振るったり、焼き芋を焼くなど、活躍の場を持つよう支援している。

のある

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	小規模多機能型居宅介護 夢かご
ユニット名	

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	○ 3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように
	○ 2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	○ 2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	○ 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	○ 2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	唱和を朝礼やミーティングの都度行い、理念にもとづいた介護の実践に心がけている。	理念は運営方針と一緒に玄関に掲示してある。朝礼で唱和、確認をして共有を図っている。職員はいつも利用者に「夢、安心、笑顔」をモットーに、理念の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を主軸とし、地域住民との意見交換をおこなっている。また、地域清掃作業や消防訓練などへ参加しています。	自治会に加入している。地域の夏祭りや清掃（除草）作業、消防訓練に職員が参加している。小学生が来訪してゲームをしたり、大学生の訪問があるなど、地域との交流の機会がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護や認知症に対する相談に応じ、介護保険サービスへつなげる協力をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の話し合いを通じ、事業所のあり方を考える参考にさせていただいている。	会議は2ヶ月に1回、年6回開催している。メンバーは自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、行政担当者である。駐在所員も参加を予定している。事業所の活動報告のほか、自治会長より「カフェを開いてはどうか」との提案があった。	自治会長からのカフェ開設の提案を踏まえて、小規模多機能型居宅事業やグループホームの機能や役割などを地域の人達に情報発信する機会を作りたいことを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日常的に密接な連絡調整は行なっていない。	運営推進会議の行政担当者との連携は密で、要介護認定の申請代行や情報交換などを行っている。市の小規模多機能事業所連絡会に出席している。市主催の認知症の研修会に出席し、運営に活かしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い、身体拘束を学び、日ごろの接遇に留意している。	身体拘束廃止のマニュアルは備えている。身体的拘束だけでなく、「だめ」「いけない」という言葉の使用や、慣れによる雑な言葉遣いなど、言葉の使い方、利用者への声かけには注意をし拘束のないケアに努めている。玄関の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	テキストを活用し、介護事故、身体拘束とともに、勉強会を行なっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全体への周知はできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	変更点の説明を文書と口頭でおこない、理解と同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いただいた意見、提案を真摯に受け止め、会議等で検討し、可能なかぎり実行している。	送迎時や訪問の際に利用者、家族から要望や意見を聞くようにしている。連絡ノートも活用している。外出の機会を作りたいとの要望があり、ブドウ狩りや紅葉狩りなどの機会を作っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員とのコミュニケーションにつとめ、意見をうかがっている。	毎月のフロア会議で職員から意見を聞いている。管理者は職員と自由にコミュニケーションが出来るよう心掛けている。畑で採れた白菜を漬物にする、リハビリを兼ねて芋ほりを行うなどは職員の提案をもとに実践した事例である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部と協力し、待遇改善につとめている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できるかぎり研修に参加させ、事業所へフィードバックさせるとともに、内部研修も行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	高齢協の行事や連絡会などに積極的に参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常のコミュニケーションからニーズを引き出し、安心して生活できる環境づくりをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	できるだけ多く連絡、訪問をおこない信頼関係を築き、ご家族の本音を引き出す努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズの変化を的確にとらえ、きめ細やかな対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることは本人にやっていただき、ともに生活する一員としての意識を持っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の状況をこまめにお伝えし、面会や外出の機会を持てるよう促している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	要望に応じ、墓参りへの同行、買い物への同行など行なっている。	馴染みの店での買い物に同行することがある。移動販売車が来た時は馴染みの品の購入を支援したり、散歩や墓参りなども家族の協力で続けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係性に留意して食席を工夫したり、必要があれば居室を移動することもある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時、いつでも相談に応じる旨を伝えている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントやコミュニケーションを密におこない、意向の確認に努めている。	送迎時や訪問の際に利用者の思いや意向を把握するようにしている。入浴時に利用者とは1対1で接している時や、泊りを利用し、リラックスしている時に聞くこともある。現在は利用者との意思疎通は出来ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの段階でこれまでの生活背景の把握につとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察、コミュニケーションの中で把握している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングに基づき、担当者会議を適宜開催し、家族、本人両者の意見を反映したプラン作成を行なっている。	モニタリングは毎月実施し、ケアプランの見直しは半年ごとに行っている。計画書の作成は本人、家族、職員、管理者及びケアマネジャーが参画して行い、本人や家族の意向も反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は時系列で詳細に記載し、記録の確認で共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に新しいサービスを模索し、人員体制、サービスの体系の変化を惜しまない運営をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日常的とはいえない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の往診、必要に応じて外来の活用をしている。	利用者それぞれのかかりつけ医の通院に、職員が同行支援をすることもある。処方箋などの医療情報は、家族、事業所で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	准看護師を配置しており、医療的な助言をうけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先へのお見舞いやMSWとの連携を図り、情報共有につとめている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医のムンテラに施設側も立会い、十分な説明と施設でできることなどを綿密に話し合っている。	緊急時の対応については契約時に書面で説明している。看取りは現在行っていないが、職員の研修の実施や医療機関との連携強化などの課題に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時の対応には不安がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域消防との覚書を作成しており、また防災訓練を適宜行なっている。	緊急対応マニュアルは備えている。防災訓練は年2回実施している。夜間想定訓練も予定している。	今後の非常時に備えて、食料や飲料水、衛生用品など備蓄品の確保を期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家庭の状況、個人の身体状況等が不必要に周囲に把握されないよう、言葉かけや対応に配慮している。	プライバシー保護については日常の業務を通して指導をしている。利用者の個人情報ファイルは施錠管理をしている。排泄時のドア閉めや入浴時の同性介助など自尊心を損なわないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを聞き出すようにコミュニケーションに工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調、精神状態に気をくばり、無理のないペースで過ごせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常的にはできていない。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事をつくるお手伝いや、片付けを依頼し、一緒に談笑しながら作業をおこなっている。	食材は外部へ発注しメニューは職員が作成し、調理も職員が交代で行っている。敬老会や七夕、クリスマス会など、行事の時は特別な食事を楽しむ機会がある。調査当日は誕生会があり、職員手づくりの食事が提供されていた。ブドウ狩りや紅葉狩りで外食を楽しむ支援もしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は常にチェックし、不足しないよう気をくばっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の後は		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	できている。	排泄チェック表を活用して職員の声掛けで自立排泄の支援をし、改善した人もいる。介助が必要な場合は同性介助を基本にしている。失禁した場合はさり気ない声掛けで居室や浴室に案内し対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	決めている。	入浴は原則午前中としているが、利用者の希望に柔軟に応えている。季節のゆず湯や菖蒲湯、入浴剤などで入浴を楽しめるよう支援している。入浴を好まない人には、泊りサービス利用時に夜の入浴を勧めるなどの支援をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状況に応じて対応するように努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的とはいえない。	日頃から利用している農協や郵便局に同行支援をしている。行きつけの美容院や墓参りなどの外出支援もしている。事業所の広い敷地内に散歩コースを設定し、屋外に出る機会を作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	していない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	できている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	できている。	大自然に囲まれた環境で、リビング（兼食堂）は東面にあり、明るい共用空間である。広いウッドデッキからは竹林や紅葉の山々の眺望が良い。調査当日はクリスマスツリーや実物の紅葉を利用した貼り絵などで季節感を出していた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	できている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できている。	居室は4ヶ所あり、事業所ではベッドやエアコン、照明、テレビ、物入れなどが備えてある。部屋からの眺望が素晴らしく、清潔に保たれていて心地よく過ごせるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している			

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 小規模多機能型居宅介護事業所

作成日 平成27年2月27日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	防災備蓄品の整備	15名3日分の備蓄水と非常食の整備	備蓄水と非常食の購入	平成27年3月中
2	3	地域住民へ情報発信する機会を創出	認知症カフェの開設	高齢者支援センターと協力し、開設の会議を開始した。	平成27年度内
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。  
 注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。